いきいき協働事業評価シート

団体用（NPO法人　こども未来ラボ）

○ 協働事業の概要

記入年月日　平成 30 年　　月　　日

事業名	小平市ペアレントプログラム実施事業（小平市いきいき協働事業）
団体名	NPO 法人　こども未来ラボ
担当課名	障がい者支援課
事業期間	平成 29 年 4 月 3 日～平成 30 年 3 月 31 日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

① 地域の課題が解決されましたか。（計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。）

このペアレントプログラムを家族支援、支援者支援の主軸とすることで、育て難さを抱え、子育てと上手に向き合えないお母さんたちの気持ちを前向きに変えるきっかけとなった。その結果、お母さん同士の親の会への参加も促せ、情報交換や同じ立場のお母さんたちの間での「共感性」が生まれ、良い環境へと変わったことに繋がった。支援者たちにおいてもその子の「在り方」を支える手法を知り、学ぶことで保育の現場のスムーズな運営や保護者の方たちの信頼を得ることに繋がった。さらに、発達障がい児の親支援という地域の課題を解決するために、行政・NPO・支援者などを巻き込むための仕組み作りにつなげることができた。

②団体の長所を、発揮させることが出来ましたか。（市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開ができましたか。）

団体は地域に在って「寺子屋」（子ども支援）「親カフェ」（親支援）など地域密着型での支援を行っている。また団体には特別支援教育士、早期発達支援士の専門職がいるため、お母さんたちの本音を聞き出しやすく、今置かれている子どもたち、お母さんたちの「困り事/ニーズ」に対して的確な環境調整や支援がなされている。その中でペアレントプログラムはまさに今、必要な家族支援であったといえる。行政との協働事業はまさに団体の持つ専門性の知識と行政の持つ広報力がより効果的・効率的に発達障がい児を育てる親たちの地域支援に高い成果が得られることに繋がった。

③協働の姿勢が図られましたか。（互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。）

報告、連絡、相談業務をしてきたことで、互いの立ち位置を理解でき、またそれぞれの得意分野を知る事となり、最大限の強みを活かしこの企画／運営に臨めた。

④改善提案がありますか。

ペアレントプログラムを家族支援の主軸とするために、今後のプログラムの広がりについて、またどのように定着させていけるか、今回参加した家族、支援者たちへのフォローも今後の事業計画に加え、地域全体でどの親にも安心した子育てができる環境作りを目指す方向性が必要と思われた。

自由記載欄

今回、ペアレントプログラムの連続講座を実施する前段階に「プレ講演会」を企画／運営したことで、ペアレントプログラムへの参加意識が高まり、その成果が得られた。このように子育てに困り感のあるお母さんたちや支援者たちへのサポートは日々、当事者たちの「困っています」からスタートすることが大切であり、いかに「共感性」を持った企画／運営が望ましいか、学ぶ事となった。